昭和37年5月28日　第3種郵便物認可
昭和49年6月15日　印刷（毎月1回）
昭和49年6月20日　発行（20日発行）

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SCIETY OF CIVIL ENGINEERS

土木学会論文報告集

No. 226, 1974-6

偏載荷重を受けるπ形断面桁橋の上フランジ
有効幅に関する研究……山村信道…1

吊橋断面の2自由度フラッタについて……中村泰治 吉村健…13

片側補強リングの補強効果について……秋山成興 奥村敏恵…21

沈殿池の非定常最適操作に関する一考察……芝定孝 井上頼輝 高松武一郎…33

歩行者交通の住区内における分布解析……竹内伝史…45

道路網における容量制約を考慮した確率
最大化配分法とその解法……松井寛…57

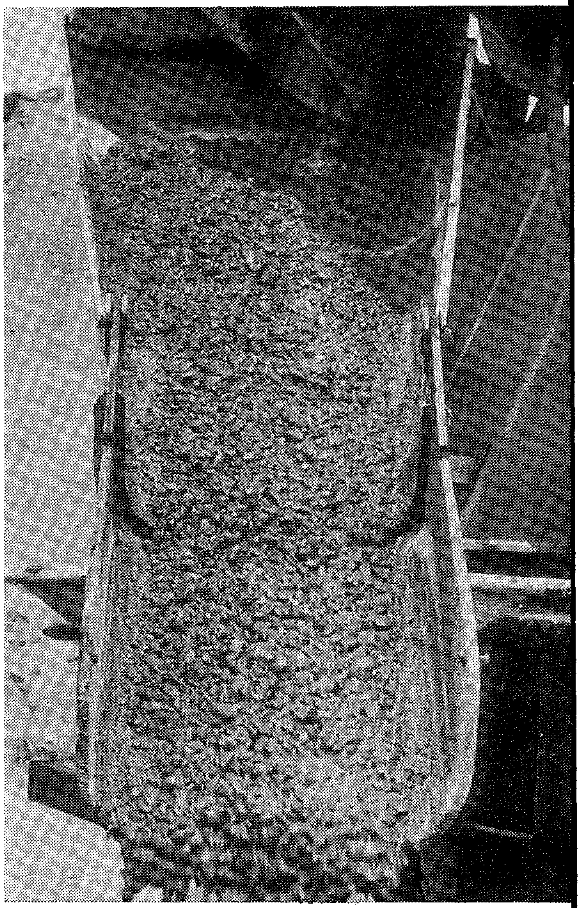
膨張セメントの膨張圧に影響をおよぼす諸要因……小林一輔 伊藤利治…67

シミュレーションによる既設鉄筋コンクリート
橋の耐荷力の評価……藤井卓 太田利隆 前川静男…73

図書室
NO.
土木学会
1974.6.25
日本技術開発(株)

混和剤は個性を持っています。

選択にはキビシイ目で…………



混和剤は各銘柄ごとに個有の使用量や使用方法、そして効果を持っています。このため使用時には、そのつど比較試験が行われるわけです。
混和剤は、その特性を十分に認識して使うことが必要です。ですから、ただ一度だけの試験結果で混和剤の性能を定めることなどは危険です。過去のデーター、研究発表、使用実績、使用方法の簡便さ、危険度、その混和剤が十分に管理された状態で生産されているか(品質の均一性)など、総合してその特性価値や性能を判断してください。
混和剤は、混和剤に適合する使用を行ってこそ、その有効な使用が可能です。
混和剤は正しく用いてください。

信頼のブランド

セメント分散剤
ポゾリス
コンクリート減水剤

NISSO MASTER BUILDERS

ポゾリス物産株式会社
本　社　東京都港区六本木3－16－26　(582) 8811
東　京・大　阪・名古屋・広　島・福　岡・仙　台
札　幌・上　越・高　岡・宇都宮・千　葉・静　岡・高　松

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

No. 226 June 1974

CONTENTS

On the Effective Flange Width of π-Section Girder Bridges under Eccentric Loadings
By Nobumichi Yamamura 1

On the Binary Flutter of Suspension Bridge Sections
By Yasuharu Nakamura and Takeshi Yoshimura 13

On the Reinforcing Effects of the One-Sided Stiffening Ring
By Narioki Akiyama and Toshie Okumura 21

A Consideration on Nonsteady State Optimum Operation of a Settling Basin
By Sadataka Shiba, Yoriteru Inoue and Takeichiro Takamatsu 33

The Distribution Analysis of Pedestrian Trips in Residents
By Denshi Takeuchi 45

Probability Maximization Model for Traffic Assignment with Capacity Restraint and Its Analytical Methods
By Hiroshi Matsui 57

Factors Influencing Expansion Pressures of Expansive Cements
By Kazusuke Kobayashi and Toshiji Ito 67

Evaluation of the Load Carrying Capacity of Existing Reinforced Concrete Bridges by Computer Simulation
By Takashi Fujii, Toshitaka Ohta and Shizuo Maekawa 73

The Japan Society of Civil Engineers

Yotsuya 1-chome Shinjuku-ku, Tokyo
JAPAN

土木学会論文報告集投稿要項要約

1. **投　稿　者**：本会会員，ただし連名の場合は1人以上が会員であること．
2. **原稿提出期日**：随時
3. **原稿の書き方について**：土木学会投稿の手引き第3章参照．
   - ○提出部数：正原稿（図・表・写真とも）および複写3通．
   - ○図表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れする（線図・文字・符号などすべてスミ入れすること）．
     表は原則として活字で組むが，表の中に図が入る場合，複雑な表はすべてスミ入れするものとする．
4. **論文報告の長さ**：論文報告1編の長さは原則として刷上り**図表を含み10ページ以内とする**．ただし，6ページまでの超過は認めるが，その費用はすべて著者の実費負担とする．
5. **和文要旨について**：和文要旨は図・表・写真を含み刷り上り 0.5 ページ（800 字～900 字）として3部提出する．なお，投稿の手引き（6ページ）に記述してある「7. 欧文要旨」は現在必要ありませんのでお含みおき下さい．
6. **討議について**：討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とし，論文報告集掲載後6カ月以内を原則とする．
7. **査読について**：査読は次の5部門で行うので投稿原稿はどの部門に属するかを明記する．
   - **第1部門**：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
   - **第2部門**：水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学等
   - **第3部門**：土質力学・基礎工学・岩盤力学等
   - **第4部門**：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
   - **第5部門**：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

土木学会論文集編集委員

◎印主査　○印幹事

委員長　久野悟郎
委員　秋山成興
〃　赤松惟央
〃　足立義雄
〃　綾日出教
〃　石沢成夫
〃　板倉忠興
〃　市川新
〃　稲葉紀昭
〃　岩松幸雄
〃　宇野尚雄
〃　江刺靖行
〃　枝村俊郎
〃　小川紀生
〃　小川正二
〃　大内雅博
〃　大塩明
〃　◎岡内功
〃　岡村降夫

副委員長　◎稲田倍穂
委員　奥山育英
〃　奥村樹郎
〃　片倉正彦
〃　○片山恒雄（総括幹事）
〃　神田徹
〃　○木村孟
〃　喜田大三
〃　菊田征勇
〃　北原義浩
〃　小坪清真
〃　小森修蔵
〃　佐武正雄
〃　佐鳥悦久
〃　斎藤和人
〃　斎藤健次郎
〃　西頭常彦
〃　坂井藤一
〃　沢田健吉

委員　椎名彪
〃　鮏川登
〃　田中則男
〃　田中康之
〃　○田辺忠顕
〃　◎武田昭彦
〃　○玉井信行
〃　◎土屋昭彦
〃　中村宏
〃　中村文雄
〃　西野文雄
〃　西岡隆
〃　橋本宏
〃　桧貝勇
〃　広田良輔
〃　日比野敏
〃　藤田洋
〃　星谷勝

委員　堀江興
〃　堀川浩甫
〃　北条紘次
〃　前田武志
〃　◎松本嘉司
〃　松元和彦
〃　御子柴光春
〃　三浦裕二
〃　宮田尚彦
〃　宮田利雄
〃　村井俊治
〃　村上順雄
〃　○森地茂
〃　矢作枢
〃　山下弘
〃　山田清臣
〃　結城皓昭

土木学会論文報告集 No. 226　　**定価 450 円（〒 50 円）**

昭和 49 年 6 月 15 日 印刷　　昭和 49 年 6 月 20 日 発行

発者行　東京都新宿区四谷1丁目　　社団法人 土木学会　専務理事　下村　肇

発行所　社団法人 **土木学会**　郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目　振替東京 16828 番
電話 (03) 351—5138

印刷所　東京都港区赤坂 1-3-6　技報堂